

平成26年度ボランティア活動支援・活動紹介

■ ほおずきの会墨彩画（札幌市）

事業概要

老人施設での趣味活動に協力し喜んでいただくことを目的としています。

墨で「大人の塗り絵」「絵手紙」を合わせた「墨彩画カレンダー」作りを教えています。

認知症防止と脳の活性化などで、すこやかクラブの活動を支援のお話が来れています。

今年三里塚小学校で「シニアスクール」講師、「青葉のまち」体験型雑学塾「まなびーの」講師、ご近所先生講師など活動をしています。



活動の成果

現在、デイケア、老人施設13カ所（約300名）。

すこやかクラブ3カ所

清田区区役所でボランティア研修会、趣味の活動の講師、「ご近所先生」「シニアスクール」「まなびーの」講師として「墨彩画カレンダー」作りを教えています。

■ ふれあいサポート（札幌市）

事業概要

平成22年度より活動を開始した本会の活動回数は、平成26年度52回と最高に達した。活動のほとんどが出前歌声サロンで、対象は高齢者である。要請の9割が町内会及び老人クラブであり、活動場所は町内会館となっている。歌声サロンでは、時代の歌、ご当地ソング、童謡などのジャンルからテーマを決め、エピソードを紹介しながら、カラオケやパソコンの機械、ピアノやアコーディオンの生伴奏を交えながら、みんなで歌う会を進めている。



今年度は、地区センターや道民カレッジで、「なつかしの歌を歌おう」講座を行うことができ、活動が広がりをみせている。

活動の成果

高齢者の健康保持やふれあいの場の提供を目的に活動してきたが、多くの参加者や出動依頼を受けることができ、有用感を実感している。地域のセンターや道民カレッジで

の実施が増え、行政や地域との連携を図ることができ、大きな成果となっている。ボランティア活動には多くの協力者が必要である。毎年、ボランティア活動に参加希望が増え、活動の輪が広がってきている。また、活動の広がりとともに他のボランティア団体の日舞チームやアコーディオン奏者、プロの歌手の方との連携も行われ、一緒に取り組むことも数回あった。次年度より、より魅力的なプログラムを作り、喜んでもらえる活動を続けていきたい。

■ 札幌市三世代交流協会 清田ライラックの会（札幌市）

事業概要

毎年、新学期の時期により小学1年生が学校に慣れるまでの期間、児童と一緒に通学路を歩いて事故防止や話し相手になってサポート活動する。



活動の成果

児童会館の先生や小学校の校長先生たちに大変喜ばれています。

毎月、児童館の先生や子ども達が私たちボランティアに会えることを心待ちにしています。

子ども達から会員の方々に、心のこもったとっても嬉しい手紙をいただきみんな大変喜んでいきます。

1年でも長く元気で続けたいです。

■ 札幌市三世代交流協会 清田ライラックの会（札幌市）

事業概要

近年、少子高齢化社会が進む中、特に認知症などにより判断能力が十分でない方について、その方の権利を守る援助者を選ぶことで、法律的に保護する制度が「成年後見制度」ですが、一般市民にはまだなじみが薄く、普及も遅れていることから、当NPO法人は、毎年2回のセミナーを開催しているところ、今年の春は当法人副理事長による制度説明会を開催し、秋には外部講師によるセミナーを企画しました。そこで成年後見制度にも大変詳しい公証人の方を講師に招き、10月25日（土）に56名の多くの参加者が来られて、熱心に聴講されました。



活動の成果

多くの市民の方々が、遺言や成年後見制度に関心を持っていただき、大変良かったと思います。アンケートを集約した結果でも、再度の講演要望や更なる成年後見制度の説

明会を求める声もありました。その後も当NPO法人に対し、相談など多数の問い合わせなどがあり、今回のセミナーの反響が大きかったことを窺われました。

これからはさらに地域でのボランティア活動に関わり、連携を深めていきたいと思えます。

■ 北海道自閉症協会札幌分会（札幌ポプラ会）（道央圏 北広島市）

事業概要

「コミュニケーションが取りづらい」「発達がかかるといったお子さんをお持ちの保護者を対象にした講話及び交流会を紹介しました。

前半の講話では、発達障がい、自閉症についての基礎知識を交えながら、発達が心配なお子さんへの具体的な関わり方の例や環境の整え方、また保護者が楽しく元気に子育てをしていけるようなアドバイスなどを講師よりお話しいただいた。



後半は札幌市を活動拠点とする4つの「親の会」活動紹介を行い、それぞれの代表にも参加いただき少人数のグループに分かれ交流した。

活動の成果

- 講話によって子どもへの関わり方や問題解決の仕方、一人で抱え込まず相談するなど育児がつかずならないための方法をお伝えすることができた。
- どこに相談したら良いのかと困っていた。一人で心配を抱え不安でいたという参加者が同じような経験をしてきた先輩保護者に話をして共感してもらったり、経験談を聞くことで、心の負担や孤立感が軽減することができた。
- 福祉サービスなど利用できる社会資源の情報を提供したり、参加者同士で交換することができた。
- 発達障がい、自閉症の支援をされている方々の参加もあり、支援の方法を学んでいたくとも保護者の思いを知っていただく機会を提供することができた。また、参加は叶わなかったが案内を見て相談の電話をされてきた方の複数名おり、まだまだ行き場がなく一人で悩んでいる方もいるのだと知ることができた。

■ 介護予防教室「すまいる」(道央圏 小樽市)

事業概要

小樽市銭函地域に在住する65歳以上の高齢者を対象に、小樽市介護保険課や東南部包括支援センターの協力を得て、毎月第1、第3水曜日の月2回、午前10時から11時30分まで、介護予防のための軽い運動やレクリエーション活動を実施している。



活動の成果

運動開始前と終了時に、参加者の血圧測定を実施。

その際、その日の体調と聞き取り、参加者に無理の係らないような運動を指導している。

レクリエーション活動では、参加者と一体となり、楽しいゲーム、童謡の合唱、やさしいクイズを出し、認知症の予防に役立てている。

■ シニア元気教室イキイキ(道央圏 小樽市)

事業概要

年々増える独居老人や高齢者の引きこもり、認知症の防止のため、地域の独居老人や高齢者に集まっていただき、ストレッチ体操やゲーム等を楽しく体動かして外に出かける機会を作り、又仲間同士の交流を作ってい、お元気で過ごしていただく。

サポーター(ボランティア)数人と町内会館を利用して運営していく。



活動の成果

イキイキ教室も2年を過ぎますと初めの時は何となく言葉も少ない静かな教室でしたが、今は皆さんとても仲良く、この日に会えることが待ち遠しいようで、おしゃべりが始まったら止めるのに大変なくらい嬉しい状態です。中には、4、5人で集まってウォーキングをしている方もできました。名前呼び合い和気あいあいという所です。

もっと月の回数を増やしてほしいとの要望もあるのですが、サポーター(ボランティア)の数が少なく、もっと参加者の数も増やすこともあるので、無理をしないで続けようと思っております。

■ 小樽認知症の人を支える家族の会（道央圏 小樽市）

事業概要

私どもの会は、毎年９月に開催する「アルツハイマーデー」特別講演会を９月２７日に開催しました。

本年は講師お二人を招聘し、講演と音楽療法士による介護現場で実践のため示唆に富んだお話があり、参加者一同大きくうなずいておりました。

認知症への偏見や差別意識を周辺はもとより、地域全体で見守り絆を強める大切さを強調されておりました。

また、音楽療法士のお話と楽器による演奏では昔の歌謡曲など一度口ずさんだ歌を全員で合唱するなど大きな口で声を出し笑いのうちに時を過ごしました

また、明年のアルツハイマー講演会での再会を誓い閉会しました。



活動成果

昭和６２年に創設されましたが、これまでの講演会、相談会などの活動が口から口へと裾野を広げ会の存在を知っていただくようになりました。

主たる活動では、つどいの会（介護者の相談）、市内の学校、会社等らの介護についての講演、ＳＯＳネットワーク等行政等との連携、サポーター養成講座及び会報の発行等行っています。

今日では高齢化の進展により社会問題となる認知症等高齢者への対策は一層急務となる折、会の活動は重要となります。

今後も引き続き関係機関のご指導をいただき活動を進めてまいります。

■ 小樽 BBS 会（道央圏 小樽市）

事業概要

市内の全小学校にチラシを配布して参加者を募集した。当日は、小樽運河内の街園にて参加した小学生に対して市内で活動しているボランティアの観光ガイドに講師をお願いして小樽と運河の歴史について解説した。

その後、クルーズ船に乗り、クルーズ船のスタッフからの説明を聞きながら、水上から運河を眺め、かつては、海上輸送の中心を担っていた時の様子を体験してもらった。

活動成果

参加した小学生とその両親から「実際に船に乗って運河を見たのは初めてでとても楽しかった。」「子どもがとても喜んでいて参加させてよかった。」「来年も行っていきたい。」等の感想をいただき、小学生に体験を通して強度への理解を深めてもらいたいという目

的を達成できたと考えている。

■ わんぱくスポーツクラブ（道央圏 倶知安町）

事業概要

運動、ゲーム、季節の行事等の活動や経験を通じて、親子間、子供間のコミュニケーションを図るとともに、幼児の情操、身体の発達を高め、正しい生活ルールを身につけることを目的とする。

【内容】（母親達の自主的な計画・立案で楽しく遊ぶ）

- ・用具・遊具を使った遊び、親子体操、幼児ダンス、誕生日会
- ・消防署、農業学校見学、バザー、ぞうきんレース（無料で使わせていただいている場所なので、活動した後は「ありがとうございます。」の感謝の気持ちを込めてきれいにします。）



活動の成果

親子ともに友達が増え、家族以外の人と関わるが増え、やって良いこと、だめなことなども学び、団体行動をしていく中でも、色々なルールを学び、入園・入所前の子どもたちは、とても多くのことを身につけることができ、成長できたと思います。

母親間でも、育児の悩みなどを話せる人や増えることや活動外での活動範囲が広がったりと、楽しく育児などができるようになった。

長く続いている会なので、このまま親子で楽しく活動・成長できる場として続いてほしいと思う。

■ ほすい会（道央圏 夕張市）

事業概要

地域の老人クラブ等により要請があり生活習慣病を予防する食生活（主に塩分）を重要とし、会員さんとともに健康意識、介護予防などの食を通じて楽しんでもらいたい。

活動の成果

減塩の大事さを理解していただき、また料理によってのたくさんの野菜をとることができると高齢者や一人暮らしの方には特に喜ばれます。ほすい会員も高齢者が多いのですが、できる限り活動を実施していきたいと思っています。



■ 演芸ボランティア「ななかまど」（道央圏 岩見沢市）

事業概要

福祉施設での芸能発表

・内容

- ① 懐メロを挿入した寸劇
- ② ピアノ伴奏で合唱
- ③ リハビリ体操
- ④ 懐メロ芝居カラオケ発表
- ⑤ 大道芸

（南京玉すだれ、腹話術、手品、バナナのたたき売り）



活動の成果

福祉施設を利用している方々が笑顔で楽しんでくださいました。

■ たんぽぽの会（道央圏 月形町）

事業概要

月形町の主婦力を活かし、コサージュ作りや地域活動支援センター利用者へ昼食作り、地域行事に参加するなど、地域活動に取り組んでいます。

コサージュ作りは、小・中学校の卒業生が胸につけるコサージュを、生花から手作りし贈る取り組みを20年前より行っています。

昼食作りは、4～10月の第2・4水曜日の月2回、2名ずつ当番制で参加しています。



活動の成果

コサージュ作りは、20年前より行っている活動で、生け花のコサージュをつけるのは、月形町ならではのことで、学校さん側からは大変喜ばれております。

地域活動支援センター利用者への昼食作りは、昼食を作った後に、利用者の方と談話しながら食事をし、交流しており、大変喜ばれております。

■ シニアリーダー会「アザレア」(道央圏 新十津川町)

事業概要

町内の子ども回活動の推進および青少年健全育成を目的として、町内在住の青年および高校生が支援を行いました。

今年度は、各地区の子ども会キャンプ事業やかなるた大会の練習会が悪天候により中止となり、活動機会が例年に比べ少なくなりましたが、子ども会主催のかるた大会やクリスマス会や、町内の子どもの体験事業など積極的に活動に参加し、子どもの健全育成活動に寄与しました。



活動の成果

活動により、子ども会活動、子どもの体験活動及び青少年健全育成活動に参加することができ、子どもの健全育成に寄与することができました。

また、開院時自身が子どもとふれあう活動に参加していく中で、コミュニケーション能力や企画運営能力の向上が図られたこと、町内の様々な団体とのつながりが生まれたことは活動の成果の表れだと思います。

年間を通じて、様々な子ども会活動、青少年健全育成活動及び町内のイベント等に参加し、充実したボランティアを行うことができました。

■ 東日本大震災復興支援事業 明德・絆の会 (道央圏 苫小牧市)

事業概要

被災地、宮城県気仙沼の教育委員会などのご協力などをいただき、私立小学校14校に5年、6年生の子ども達を対象に夏休みに涼しい北海道で大自然の中、思いっきり走り、また、自然の中でしかできない体験型学習を通し、自然の大きさや大切や、自然の力の偉大さなどを学び、そして東北の子ども達が体験した大きな地震、津波との関わりなどを考え、自然が話す脅威もあり、しかし私たちに与えてくれる楽しさ、豊かさもありそこから幸せを感じ取ってくれたらと願い募集しました。また、苫小牧の子ども達も数名参加し、寝起きをともにして絆の大切さや交流を通して子ども達自身が、もっと故郷を愛し、もっと自分に自信を持って将来故郷の復興の先頭に立つ人間に育てただけけることも同時に願っての復興支援事業です。



活動の成果

私たちの復興支援事業も2年目を迎え少しずつではありますが、風化の一途を歩んで

いると考えます。

そんな逆風の中での実施でもありましたが、声をかけると、振り向いてくれる人、支援金として応援してくれた人、などなど、まだまだ地域の人たちの中には、あの震災が他人事とは思えないと考えてくれている人たちがたくさんいると感じました。また、そうした思いの中で、誰かがこえをかけてくれたら私も参加したい、少しでもお役に立ちたいと待っている人もいるんだということがわかりました。今の世の中、同じ地域、お隣近所でも交流がない、なかなかできないという状況がありますが、少子高齢化の問題です。しかし、この交流を通して、小さな子ども達、お年寄り、若いお父さん、お母さん達が一緒に参加して、少しでも復興のお手伝いできればと汗を流しました。子ども達は、集団生活を通して、我慢することなど、さまざまなマナーを学び、これからの人間形成の上で一番大事な人と人のつながりの大切さ、絆とは？を学べる機会であると思いました。

■ もえぎ町実行委員会（道央圏 苫小牧市）

事業概要

被災地、宮城県気仙沼市の教育委員会などのご支援をいただき、気仙沼小学校の4年、5年生を対象に20名を招き、地元の児童達も数名参加させて、寝起きをともにし、子ども達の交流を通し、自分の周りの人たちとの絆の大切さを学び、心身共に大きく成長してもらい、そしてふるさとに希望を持ち又、北海道の大自然を思う存分楽しんでもらい明日への活力にしてもらう。



活動の成果

私たちの復興支援事業も2年目を迎え少しずつではありますが、風化の一途を歩んでいると見えます。そんな中での支援事業ではありましたが地域の暖かい思いが一つとなり、子ども達から若い世代の人たちまでが、一つの事業に汗を流しました。

そうした事業から、町内の交流が深まり、子ども達は、気軽に挨拶をするようになり、高齢化が進む中、お年寄りの方々も、今までに言葉も交わしたこともない子ども達との交流が始まり、積極的に外に出るようになり、地区全体が明るくなったような気がします。また、子ども達同士の間では、気仙沼の子ども達と文通などを通して、震災の恐ろしさなどを学んでいる子もいます。

あと2年しか残っていませんが、いまだに想うように復興が進まない東北を思う時胸が痛みます。残り2年なんとしてもやり抜きたいと地域全体で思っています。

■ はまわしの会（道央圏 登別市）

事業概要・活動の成果

1. 若い人は少ないですが、国道の花壇、草取り、毎月、水曜日、4回出て行っています。その他にも、多忙な時は決まった曜日に関係なく出てくれます。
2. 毎月1回のワンコイン食事会（きずな）を行っています。好評です。



■ ボランティアさつき会むかわ町赤十字奉仕団（道央圏 むかわ町）

事業概要

むかわ町社会福祉協議会で行う事業（毎月開催されるいきいきふれあいサロン、年1回のふれあい広場）などの昼食づくりのお手伝い。

地域においては、むかわ町敬老会協力、特別養護老人ホームで行われる盆踊り大会や身体障害者スポーツ大会の豚汁作りなど会員全員で協力しました。

8月・12月に65歳以上の一人暮らしの人に一言添えて絵手紙を送付。

雑巾やバスタオル・手ぬぐいなどを集め、社会福祉協議会を通して毎年、町内の各福祉施設に届けていただくよう贈呈していたしました。



活動の成果

むかわ町社会福祉協議会への事業協力は、年計画を立てサロン事業は班体制を組み、1回開催時には7人で実施。

数年に一度開催される各団体の事業協力でも主に食事に関する相談や実務は増えています。

町と連携を図り、災害時を想定し、炊き出しでも用いる道具を借りて調理した。「どれくらいの火加減が必要で、何人分作るのかを知る機会になった」。また、各種研修会にも積極的に参加し、視野を広げた。

■ 函館市中心街まちづくり協議会（道南圏 函館市）

事業概要

多くの人が集い、賑わいある中心市街地となるよう、函館の玄関口である函館駅前的大门地区で、地域の人々が音楽の文化に触れながら、秋の一日を楽しんでもらうために音楽祭を開催する。

また、このような地域貢献活動を通じ、子供達が地域社会に繋がり、考える一つの機会となるよう、市内の中学校の吹奏楽団による合同文化祭とし、子供達の先輩として地域の大学生の吹奏楽団員等に参加を呼びかけ、子供達の演奏に対する感想やアドバイスをもらう。



活動の成果

多くの方が会場に訪れ、街に賑わいが生まれました。

子ども達には、外で演奏する楽しさと、他校との交流、音楽を通じて地域とつながることを感じて頂けたと思います。

今回、初めて会場沿道の特別擁護老人ホームの方たちをこ招待し、5名の皆さんが交代で演奏を聞きに来てくにさいました。

子どもたちの声や演奏は、より地域の皆さんに元気を届けてくれるようで、たくさん感謝の声を頂いています。

■ 特定非営利活動法人 NATURAS（道南圏 函館市）

事業概要

なちゅらす科学実験教室とは「ものの見方・考え方を学ぶ」教室である。理科実験やフィールドでの体験を通して、ものをどう見るか・考えるかを養い、たくさんの発見やそこから展開するさまざまなことを糧にし、いろいろなことにチャレンジする精神を育てることを目的にしている。

今回は、時期、グル、凝固、などをテーマに、科学実験を楽しく学んでもらう「メタルスライム」「磁石の花」づくりを行いながら、子どもたちの好奇心を成長させていくプログラムを展開した。



活動の成果

子どもたちの理解嫌い、理科難れが話題になったが、その現状は、あまり改善されて

いないのが実情である。科学実験を遊びやクイズを取り入れながら実施することで、子どもたちの知的な好奇心を刺激し、理科や物理現象、自然科学への興味関心を高める手助けができたと考えている。

社会教育のボランティア活動の1つとして、地域社会へ貢献できたと考えている。

■ 北海道メンタル協議会（道南圏 函館市）

事業概要

- 傾聴ボランティアの育成・教育・養成(毎年2回実施)
- 傾聴ボランティアの派遣(個人宅・施設・病院等へ毎月2回)
- 心理サポート(函館市総合福祉センターにて毎月1回)
- スキルアップの為に講習会(毎月1回)
- 一般市民に向けての傾聴周知講習会(随時)
- 専門傾聴ボランティアの認定(今年度12名)
- 敬老の日傾聴訪問(毎年1回、今年度5施設)
- 認知症サポーター講習会の実施(今年度2回)
- 函館市より委託 自殺防止『いのちのホットライン』 電話対応従事

活動の成果

- 他者の話をくちさ(受容・共感)が広く周知された。
 - 引きこもり個人宅訪問により、意欲を取り戻し仕事についた。
 - 高齢者介護家族へのメンタル面への働きかけにより前向きになった。
 - 認定傾聴ボランティアの資質が向上した。
 - 函館市・木古内町・知内町・福島町・松前町の各社会福祉協議会様のご協力を頂いて渡島4町支部を設立し、地方の方にも傾聴ボランティア活動を提供できる体制が整った。
-

■ 函館 BBS 会（道南圏 函館市）

事業概要

函館 BBS 会の BBS とは、Big Brother and Sister Movement の略称で、その名前の通り「兄」「姉」のような身近な存在として少年達と一緒に遊んだり、悩み相談に乗ったりなど、「同じ目の高さ」で接しながら、彼らが健やかに成長することのお手伝いをしている青年ボランティアです。

実際の活動では、友達活動、グループワークという活動を行っている。友達活動とは、保護観察を受けている少年少女をはじめ、様々な悩みを抱えている子ども達と、同じ世代のちょっと成長の「ともだち」としてふれあうことを通して自立を支援する活動です。この友達活動は保護観察所などのさまざまな機関から依頼を受け、その指導のもとに行われます。また、グループワークでは、スポーツ大会、季節の行事などを行います。

活動の成果

2月時点で、3つの研修、2つの研究大会、2つの友達活動、4つのグループワークを行いました。この活動を通して多くの対象者と関わりを持つことができ、彼らの社会復帰の力になれたと考えられます。また研修、研究活動を行い、対象者との関わり方、他団体との連携のあり方を学びました。また、参加会員の何名かは函館保護観察所所長から感謝状をいただきました。

■ 十勝腹話の会（十勝圏 帯広市）

事業概要・活動の成果

今年度は芽室町子どもセンターにおいて、11月15日（土）、19回目の定期公演を行いました。他のイベントと重なり、観客数が少なかったのですが、80名以上の観客に見ていただきました。

大変感謝です。



■ 音訳グループ さざなみ（十勝圏 帯広市）

事業概要・活動の成果

視覚障害者に対する音訳活動

- ・北海道新聞社説、読書の声
→1週間分をまとめて音訳。
- ・日本経済新聞、日曜に考える、創論
→2週間分をまとめて音訳。
- ・新聞等から気がついた情報の音訳
- ・聴読者からのリクエストによる録音図書



■ 啓西にこここサロン（十勝圏 帯広市）

事業概要

近年、高齢化が進み、高齢者が独居になると、ますます外出しなくなる孤立に繋がってしまう。高齢者、障害者等はいろいろな悩みを抱えている方が多くおられます。そんな方々のお手伝いをできればと思い、サロンを開設し、近隣町内を通じ、独居・孤立の状態の方を探し、悩んだり困っている方のお話を聞いてあげサロンに来てよかった、楽しかったとだけ思ってもらえるようスタッフとともに頑張っています。

活動の成果

今まであまり外に出られなかった方々もサロンに出席するようになりました。高齢者

の皆さんのお話の中には今後の自分はどうなるのか、心配をいう人がほとんどです。お互いに自分の一人では得られた情報が聞けてよかったという人もおり、サロンの役目は果たしていると思っています。引続き今後も続け、地域の人たちの寄り所になるようにと思っています。

■ 帯広市食生活改善推進協議会（十勝圏 帯広市）

事業概要

- ・親子料理では、子供のころからうす味に慣れること、手づくりの大切さに加えて達成感のもてる献立の工夫と地産・地消の大切さを伝えることができました。
- ・男性料理では、20歳から成人料理、70歳からの料理教室では、地産・地消はもとより、減塩に加えて野菜摂取を高めること、高齢者では、特に低栄養にならないように腹7分目でバランスの良い献立を提供し、和食の大切さ、手づくりの大切さを調理実習と講話を通して伝えることができた。

活動の成果

スーパー又はコンビニの調理品は手軽ではあるが、塩分の多く野菜類が少なく、バランスが良いとはいえないことを伝え、その場合は野菜一皿足すことを伝えた。

若い人の調理実習枝は、「若い時から減塩を心がけましょう」と話したところ、若い女性から「減塩は病気になってからでいいんですよ」と言われ愕然としました。

病気になったら、「薬」がいること、生活習慣病を未然に防ぐ為にも若い時からまず、減塩に取り組むことの大切さを改めて伝えることができたことは大変よかったと思います。

■ 柳町カフェ（十勝圏 音更町）

事業概要

お正月1月とゴールデンウィークの4月を除き、毎月第1土曜日の9時から11時半迄、合計10回開催しています。27年3月例会は3月7日なので報告書後になりますので、現在、294名参加しております。保育園の子どもさんも2回に1回の割合で10人位が参加し、にぎやかな時間を楽しんでいます。イベントも数多く、音楽や健康体操など多彩に催しております。



活動の成果

ほぼ4年が経過してそれなりに定着しており、老人クラブに参加していない方達も毎月、参加しており、楽しみにしていただいております。地域コミュニティーの一部として、高齢者の外出の機会を作っています。これからも引き続き、地域の為に少しでも貢

献できればと思って活動しています。今後ともご支援よろしく申し上げます。

■ にこにこクラブ（十勝圏 新得町）

事業概要

今年度の計画書を基つき、第1、第3、第5木曜日に実施。高齢者芸法発表会出演のために特別練習をいたしました。利用者山もボランティアさんもお茶、おしゃべり、体操、手話で歌うことも三味線で民謡を唄わせていただき、楽しみました。町の各種行事にも誘い合わせ参加をしております。お昼はいつも軽食を用意し一同でいただいております。



活動の成果

朝、おはようございますの挨拶で始まり、お茶、コーヒーでそれぞれ近況報告いたします。体操も唄も講話なども楽しみに通所してくれていると思います。

ご夫婦で2組の方が来てくれています。皆さんから声をかけてもらい手を貸してもらいながら過ごしています。自分たちもサロン事業12年目に入ります。それなりに高齢になったのを感じ話題になっています。でも、60歳前後のボランティアさんがおりますので、心強いです。皆さん帰りには笑顔でありがとうと言ってくれるので、ボランティアさんも嬉しいねと後方をします。

利用者の方々もイスを出したり、何か手伝うよと一定くれます。

■ さらべつほーぷ（十勝圏 更別村）

事業概要

昨年に続き第2回となった「さら＊カフェ」を開催し、19名でグループワークを行いました。ワークは音楽、お菓子、飲み物を用意するワールドカフェ形式で、参加者はリラックスできる雰囲気のもと、自由な語り合いを楽しんでいた。

今回のテーマは「子ども達の未来ライン為に大人の私たちができること それは何？」。

用意した模造紙にそれぞれの思いやディスカッションの内容を事由に書きつづり、ワークのまとめには参加者自身の“気づき”を模造紙に貼りだした。

その後のミニレクチャーでは代表から、子ども達の自己肯定感を高めるライフスキル教育の重要性を紹介し、皆で共有しました。



活動の成果

子どもの育ちに関心や悩みがある大人達が集まり、語り合う中で、「私たち大人が楽しむこと」「大人のしっかりした姿を見せること」など大人自身のあり方についての考えが多く聞かれました。また、「家庭を安心できる場に」「失敗してもやり直せるように」など、家庭や社会に更なる余裕・優しさを求める声も多かったです。

参加者の一人からは、「疑問に感じながら育児をしていたが、『正しい』と確信できてスッキリした」との感想もあり、子育ての悩みを解消する一助となったと思います。

何より、村内に限らず村外の大人同士、立場も様々である者同士が子ども達について、語り合うことは、子ども達の健やかな成長について改めて考えることができる貴重な機会であり、このような場をこれからも継続的に作っていきたいと考えています。

■ 特定非営利活動法人 くしろ・わっと（釧路・根室圏 釧路市）

事業概要

地域住民、幼稚園の協働で200㎡の畑で草刈り、土起こし、畝づくりと土作りから始まり、5月18日に幼稚園の園児240名とメイクイン、レッドムーンの2種類のじゃがいもを植えました。気温が低く成長が遅れましたが、9月18日ジャガイモを収穫しました。畑を通じて交流・コミュニケーションの場を提供しました。



活動の成果

草刈りや土起こし、畝作りに地域住民、市内のNPO法人。また、種芋の植え付けと収穫を幼稚園の園児240名にボランティアとしてご協力いただきました。収穫物は皆さんにお持ち帰りいただきました。わっとでは、持ち帰ったジャガイモでカレーライス100食作り、お客様に無料で振る舞い大変喜んでいただきました。

また、作業の用紙が新聞の記事に取り上げられ、多くの方々にわっとの事業を知っていただくことができました。

■ 収集ボランティア「げんき会」（釧路・根室圏 鶴居村）

事業概要

収集ボランティア「げんき会」は平成25年4月に設立され、週1回の活動として空き缶・ペットボトルを回収洗浄のうえ、ラベルをはがしたり分別するなどのリサイクルを行っています。この会平成22年7月に発足した鶴居村ボランティア連絡会議がその後発展して名称変更したが、平成23年1月から活動をしている空き缶やペットボトルの益金はすべて車いすの費用に充てて会員から会費を徴収しなが



ら会の運営をしています。

「げんき会」の会員はほとんどが65歳以上であり、高齢者の交流を深める場（サロン）として仲間づくりの一助になっています。

活動の成果

今根戸の実績としては、平成26年12月19日にホテルグリーンつるいに車いす1台（風呂用）、鶴居村役場に1台の計2台寄贈しています。過去の実績としては、平成25年1月に鶴居村社会福祉協議会に、平成26年1月につるい養生邑病院に車いすを各1台寄贈をしています。

■ 鶴居村ボランティア連絡協議会（釧路・根室圏 鶴居村）

事業概要

鶴居村ボランティア連絡協議会では、平成26年5月15日より、被災地に手編み靴下を送る活動を目的とした「被災地に送る手編みの会」を発足しました。「被災地に送る手編みの会」では、現在、毎月第1、第3木曜日、13時30分から15時の時間帯で活動しています。



周知を図る方法として、防災無線での住民への呼びかけを行い編む人だけでなく、毛糸の寄贈をお願いしながら活動を続けています。

現在、浪江町に送付したものを除いて、300足以上の靴下と靴下カバーが作成されているので、時期を見計らって被災地各地に配布していきたいと考えています。

活動の成果

平成26年11月と平成27年2月に福島県浪江町社会福祉協議会と連絡を取りながら、合計250足の靴下と130足の靴下カバーを送りました。送った靴下は浪江町の仮説受託、みなし仮設住宅に住む方々がサロンに出てきた際に浪江町社会福祉協議会の職員が配布しました。配布した方々の8割が高齢者であったため、大変喜ばれました。

今後もこの活動を続けながら、被災地の支援を続けていきたいと考えています。

■ 要約筆記サークル 虹（道北圏 旭川市）

事業概要・活動の成果

当サークルは夜しか活動に時間を割けない方を中心のボランティアです。代表1名と大学生1名以外は、全員がフルタイム（又はパート）主婦で構成されているために、要約筆記の依頼を受けて中失協会員で、中失難聴者のために協力。活動できる者は、“時間によって”限られますが、時間の及ぶ限り依頼をお受けしております。他には旭川市民要約筆記を学ぶ会での講師として活動。中失協関連行事へも事情の許す限り参加協力。また、浅い川障害者連絡協議会のメイン行事「おびった祭り」には会員をあげての参加協力をしております。



ただいま当サークルは、目標を「全会員が要約筆記者に！」と設定し、“権利擁護のための要約筆記”“通訳としての要約筆記”の真の理解と実践のために要約筆記通訳者認定試験を目指して猛勉強中です。

■ 道北地区障害者スポーツ指導者協議会（道北圏 旭川市）

事業概要

障害者スポーツの普及振興やそれらの活動を通じた障害当事者の社会参加の促進、障害に限らず誰もが当たり前で地域で暮らせる環境づくりを目的として、障害者スポーツ大会の運営・サポート、その他地域における障害理解の啓発活動への参加協力を行った。



活動の成果

助成を受けることによって事業を安定的に行うことができ、初級障害者スポーツ指導員養成交流会では約30名の指導員の養成を行うことができました。

地域の障害者スポーツ団体への支援においては、従来関わってきた指導員だけでなく、今年度、障害者スポーツ指導員養成講座を受講した指導員が新たに活動を加わるなど、障害者スポーツを通じた輪が広がった。

さらに、今年度はアジア初となる国際パラリンピック委員会主催のクロスカントリースキーワールドカップが旭川市で開催され、本大会の運営にも本会指導員が参加することで、国際大会での経験を積むことができたとともに、地域の他団体とのネットワークを広げることができ、今後の本会活動に大いに役立てることができた。

■ 旭川日本語の会（道北圏 旭川市）

事業概要

来日間もない外国人が日本での生活を支障なく送れるよう一定のレベルの日本語を習得することを目指し、以下の要領で事業を実施している。

（１）学習者へのレッスンは個人レッスンを基本とし、週１回、６０～９０分。期間は半年から１年を目処とする。

（２）教材は対象学習者の目的・レベルに応じ適宜選択する。

（３）上記レッスンを実効にあるものにするため、会員の日本語教育手法のスキルアップのため、外部講師による研究会を実施した。

また、例会では会員の知識、スキル、レベルアップ向け相互啓発を実施している。



活動の成果

永年の活動の結果、当会の認知度高まり、また、市の国際交流委員会との提携も相伴って外国人の学習希望者が増加しつつある。

外国人学習者間の当会の評価は概ね良好と思われる。

■ 公益財団法人 AFS 日本協会旭川支部（道北圏 旭川市）

事業概要

高校生の交換留学を支援するボランティア団体で、今年度は、高校留学体験発表会とクリスマスパーティーを開催した。午前の部では、帰国したばかりの旭川在住の４名の高校生達が、それぞれブラジル、ベルギー、メキシコ、ハンガリーでの１年間の留学体験をスライドを使って発表した。また、スウェーデンに派遣された生徒は、その意気込みを発表し、高校生の参加者は、留学先の学校生活やホストファミリーとの生活について、積極的に質問し、保護者を交えて座談会のようなリラックスした雰囲気、留学体験を共有できました。



活動の成果

各高校への掲示、フリーペーパーへの掲載などもあり、参加者は４０名を超えました。世界各国からの留学生達は、三味線体験を通じて日本文化に触れる機会を得られました。先輩達の留学体験を直接聞き、留学に興味を持つ日本の高校生達も何名かおり、ホストファミリーとしての活動に興味を持っている方々もいました。

また、今回の様子は地元の経済誌『北海道経済』の取材を受け、掲載されました。これによって普段はあまり知られることのない高校留学イベントが紹介され、まだまだ数の少ない高校留学を広める契機となりました。

■ 士別手話サークル（道北圏 士別市）

事業概要

毎週火曜日の例会で、士別障がい者の会会員から手話を学び、春の交流会やクリスマス交流会など、各種事業でろうあ者との親睦を深めます。

また、ふれあい広場、市民手話講習会など市民や地域団体との交流し、ろうあ者と一緒に手話の普及に努めます。さらに、上川北部聴覚障がい者の会の事業に協力し、他地域の手話サークルやろうあ協会との交流を図ります。



活動の成果

毎週火曜日の例会で、新しいテキストを使い、より良い学習ができるようになり、ろうあ者との交流、親睦を深めることができました。

今後もうろうあ者と一緒に手話の普及に努めます。

■ おもちゃの病院ひがしかわ（道北圏 東川町）

事業概要

- 病院開院
定期購読：11回（毎月第3土曜日）
臨時開院：4回（入院おもちゃ修理のため）
出張開院：2回
- その他
自主研修：8回（情報の共有化を図るため）
- 修理数：49名、58点



活動の成果

完治した時の子ども達及び父母の喜び（笑顔）は、初期の目的（ボランティアグループは壊れたおもちゃを原則無料で修理し、子ども達には、「新しい生命を与えることに価値観と生きがい・ものを大事にする大切さ・治る喜び」学んでもらう）を果たしています。

ボランティアグループは、完治したときの喜びを子ども達及び父母と共有し、子ども達との交流が図られました。

■ おはなし会 芽ぶっく（道北圏 剣淵町）

事業概要

子ども達で活動しており、夏休みや冬休みの長期の休みを利用して高齢者施設などに伺っていますが、より幅広い年代の方々にも知っていただくとう町の文化祭での実演とPRを決めました。実演時間は10分以内、複数での参加ということで、大型紙芝居を選書しましたが、幅広い年齢層を考え、今回「じごくのそうべい」にしました。子ども達は絵本で練習し、声色を変えながら複数の人物を演じることができました。



ただライトがまぶしく、場面が見えにくいというハプニングもありましたので、来年以降、調整をしたいと思います。

活動の成果

参加した子ども達は、読解力が上がり、国語の成績も上がっています。

また、見に来てくれた子ども達からは、「私もやってみたい」という声上がり、6年生が新年生の朝の時間でお世話をする時に読み聞かせを取り入れていますが、「読み聞かせの仕方」を勉強する授業を取り入れることになりました。

現在まで長期休みに高齢者施設を訪問していましたが、学童保育所からも声が掛かり、下の学年の子ども達への読み聞かせ活動ができることになりました。

下の学年の子ども達も活動できるように繋がっていけるとと思います。

■ 特定非営利活動法人 えんべつ地域おこし協力隊（道北圏 遠別町）

事業概要

- ・ テレビ電話を利用した安否確認
- ・ 各町内会での高齢者交流会の開催
- ・ 障がい者ふれあいサロンの運営サポート
- ・ 高齢者独居老人等の冬季除雪
- ・ その他、高齢者、障がい者世帯の生活支援



活動の成果

- ・ テレビ電話を利用した安否確認の実施により、利用者の方に、見守りと独居でも安心して暮らせる環境を提供できた。
- ・ 高齢者交流会の開催により、引きこもりがちの方に、人と交流する機会を提供し、生き生きと暮らせるきっかけとなった。
- ・ 障がい者ふれあいサロンの運営サポートにより、生き難さを抱える人々に、町内での頼れる拠点を提供できた。

- ・ 高齢独居者宅の冬季除雪を行うことで、高齢者の除雪中の事故や家屋の破損等を防ぐことができた。

■ 天塩町観光協会（道北圏 剣淵町）

事業概要

乗馬のできる日本最北のふれあい観光牧場は、天塩川、日本海、遺跡風景林など乗馬トレッキングを楽しむのに魅力的なロケーションの位置に隣接しています。

乗馬指導者のボランティア活動を通じた乗馬の普及から交流人口の拡大を図り、既存観光事業などと相まって乗馬深耕からまちづくり推進につなげる取組みを行っていきます。



活動の成果

指導員の2名は、馬の世話をはじめ乗馬指導のボランティア活動で、10月下旬までに延べ82名の指導を行いました。

指導の成果から地域内や小平・初山別・稚内・豊富・千歳などから牧場利用者全体では、662名が利用し、交流人口の拡大が図られました。

利用者は、乗馬後、道の駅や温泉を利用する方が多く地域振興の推進にも繋がりました。

■ 天塩消費者協会（道北圏 剣淵町）

事業概要

お年寄りの皆さんが悪質商法に気をつけ、健康な生活を送ってもらうため、日程についてはお年寄りの皆さんが最も集まる敬老会の日に合わせました。

概要としては消費者協会で作った赤飯をパック容器に詰め、悪質商法PRラベルを貼り、敬老会参加者に提供しました。



活動の成果

敬老会参加者（172名）のほぼ全員に対して赤飯を配ることができました。

活動における反省点としては周知の遅延と不足により参加者が予定の30名より少なかったことが挙げられます。次年度は敬老会の日程が決まり次第すぐに周知を行い、参加者の増加を図ります。

■ ボランティアだけのこの会（道北圏 稚内市）

事業概要

地域が要望するボランティア活動

1. 特別養護老人ホームで喫茶お手伝い交流
2. ディサービス・センターで夏祭りお手伝い交流

活動の成果

特別養護老人ホームでは訪問する日を待っていてくれる施設利用者さんが笑顔で対応してくださり、私たちが逆に元気ももらって帰ります。



■ 読み聞かせグループ「こけももの実」（道北圏 猿払村）

事業概要

小学校において、1学年に年3回、絵本の読み聞かせ、手遊び、素話を40～45分やっています。本の紹介もしています。

活動の成果

子ども達は、楽しみに待っていてくれます。紹介した絵本や本を図書室で読んだりしています。



■ ミントマジシャンズクラブ（オホーツク圏 北見市）

事業概要

マジックを通して、北見市内を主体に老人福祉施設の慰問を初め、学校、幼稚園、町内会等への公園を1年間で40回以上実施した。また、北見市街の置戸町や訓子府町の老人ホームへの慰問、旭川市の医療機関への講演を実施した。

平成26年4月から2月毎月1回の例会を実施し、マジックの研究技術向上に向けた例会を11回実施した。



活動の成果

マジックの活動を通じて、幼児からお年寄りまで幅広い年代の多くの方々にマジック

の楽しさや不思議さ、驚きを体験していただき、マジックの魅力を広く普及することができたと思う。

又、道クラブ会員たちは、マジック活動を通じて、会員間の親睦を深め勝つ、趣味のマジックを楽しみながら充実した人生を過ごすことができた。

■ 救護ボランティア メディカルサポートチーム（オホーツク圏 遠軽町）

事業概要

不特定多数の者が参加する各種イベント会場やスポーツ大会等において、その参加者等が、突然のけがや病気に対して必要な応急手当を行います。また、突然の心肺停止状態に陥るなどの場合、救急隊及び医療チームが到着するまでの間に必要な救急処置を実施し、所要の救護救急体制を構築することを目的としています。



イベント会場等に救護所を開設し、その運営にあたりました。救急救命士等は、AED(自動体外式除細動器)並びに救急セットを携行し救護所に待機しています。会場等のパトロールも行いながら、来場者の不測の事態に対応し、速やかに救急隊及び医療チームが到着するまでの間、救護救急処置を実施しました。

活動の成果

本活動は、全4件の活動を行いました。心肺停止などの重症者の発生は幸いに1件も発生しませんでした。軽症ではあるものの、熱傷、捻挫、打撲、切創、熱中症疑、急性アルコール中毒疑等、12件の救護救急要請に応えることができました。救護所の設置により、イベント運営サイドからは来場者に安心感を与えることができた等概ね良好な感想を頂戴いたしました。救護所利用者からは、不慮の事故とはいえ、申し訳ない気持ちであったが大変ありがたかったとの感想があり、使いやすさや立寄りやすさが今後の課題と考えています。